

第1回牧之原市教育のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 平成30年2月1日(木) 13:30~16:30

2 場 所 牧之原市役所相良庁舎3階会議室

3 出席者

(委員) 島田桂吾、野村智子、佐藤利彦、池ヶ谷祐太、橋山妙子、大石齊、今野英明、
中島佑実、石井眞澄

4 協議内容【概要】

子どもにつけたい力と学び

- 力としてはコミュニケーション力で、それを発揮するための場面や手法が「対話」。
- 「対話」という言葉は使った方がいいが、力としてはコミュニケーション力でまとめる。
- 対話をする機会が大事。
- 「対話をする中で、新しい学びが生まれる」という視点は重要
- 意識せずに来た対話の場면을、もっと意識して、それぞれ幼児期から大人まで全員がやることでコミュニケーション力がつく。
- 創り出す力を一人一人が身につけていき、それを発揮することが未来の牧之原市をつくっていくという流れ。

- 「創り出す力」が大切。コミュニケーション力はそのために必要なもの。
- 自由な発想ができるようにすることで、課題発見から解決につながる。
- 創り出す力の中でも、特に課題発見から解決する力が大事。
- 発見することができない人が増えている。まずは発見できる力からつける。
- チャレンジすることは大切。

- 力、基盤、手法が分かるようにする。(例えば図上で、左右上下で分ける)
- 図で表している「力」を集約して表す。
- 力の上に理念がくると、大きすぎて分かりにくい。幼稚園の子どもには難しい。

- 非認知能力を高めることが大切。
- 教員が子どもにかかる時間の確保をするため、ハードの整備も必要。
- 地域のやること、学校のやることに線引きすることが必要で、そのためには、学校運営協議会(コミュニティスクール)等の検討も視野に入れる。

【対応】

- 対話力でなく、コミュニケーション力とし、対話を場面や手法として捉える。
- 創り出す力を重点に考え、関係が分かるように図を修正する。
- 力を集約し、定義の中で示す。
- 段階ごとの学びが見えるようにする。
- 体制、ハードについては、3、4回の委員会で協議予定。